

令和7年度

「運営に関する計画」

【最終評価】

大阪市立弘済中学校分校

令和8年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

分校の児童・生徒は、児童自立支援施設の阿武山学園に入所している。児童・生徒は、学校・家庭・地域で何らかの問題行動を起こしてきており、生活背景や置かれていた環境が複雑で、虐待・ネグレクトなどにより幼少時より十分な家庭教育を受けていない者が多く、学習習慣はもとより、基本的な生活習慣や規範意識が十分に身につけていない状況である。

また、基礎学力にも不安があり、自己肯定感や達成感を持たずに日々を過ごしてきた子どもたちでもある。さらに、年度途中での入所、転入の児童・生徒が多く、計画的・系統的な学習指導が難しい。近年では、性被害・性加害等を経験した児童・生徒の入所が増加しており、男女間の問題行動が学校生活や学園生活に乱れを起こす可能性があることから、男女別の学級編成を実施している。

施設で生活する中で、衣食住が満たされ、精神的に本来の落ち着きを取り戻した子どもたちに、基礎学力の定着と基本的な生活習慣や規範意識を身につけさせるとともに、豊かな心の育成を核とした、自己有用感や生きる力を育む教育の推進を図ることが、分校の大きな目標であると考えます。そのためには、児童・生徒と教員との信頼関係が指導上最も重要であり、個別学習や少人数指導等による学力の向上や、綿密な生徒理解によるきめ細かな生活指導など、教員との心の通った学校生活の場を作り出すことが大切であると言える。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和4年度～令和7年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、相手の気持ちを考えた発言や行動ができていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を毎年90%以上にする。 (R6=84.1%)

7月実施：90.9% **12月実施：93.0%**

(2 豊かな心の育成 2-1 道德教育の推進)

- 令和4年度～令和7年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、人の役に立つ人間になりたいと思えますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を毎年90%以上にする。 (R6=95.5%)

7月実施：96.9% **12月実施：86.0%**

(2 豊かな心の育成 2-1 道德教育の推進)

- 令和4年度～令和7年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標をもっている」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を毎年70%以上にする。

(R6=64.3%) (2 豊かな心の育成 2-2 キャリア教育の充実)

R7年度実施：72.7%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和4年度～令和7年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、学校の授業を受けて、その内容に興味・関心や意欲をもつようになってきましたか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を毎年90%以上にする。 (R6=84.1%)

7月実施：87.8% **12月実施：86.0%**

(4 誰一人取り残さない学力の向上)

- 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進(各学校の実態に応じた個別支援の充実)

- 令和4年度～令和7年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、日ごろから体を動かす運動を行っていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を毎年90%以上にする。 (R6=97.7%)

(5 健やかな体の育成 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)
7月実施：96.9% **12月実施：95.4%**

- 令和4年度～令和7年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、日ごろから病気やケガをしないように気をつけていますか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を毎年90%以上にする。 (R6=88.6%)

7月実施：97.0% **12月実施：81.4%**

(5 健やかな体の育成 5-2 健康教育・食育の推進)

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和4年度～令和7年度の、学園に対する校内アンケートにおける「学校は、園と連携し共に子どもを育てようという姿勢で子どもへの指導を行っている」の項目について、肯定的な回答をする学園職員の割合を毎年90%以上にする。 (R6=85.7%)

(9 家庭・地域等の連携・協働した教育の推進 9-1 教育コミュニティづくりの推進)

7月実施：95.5% **12月実施：100%**

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。

(R6=75.0%) (「だいたいそう思う」を加えると97.7%)

7月実施：81.8% (「だいたいそう思う」を加えると93.9%)

12月実施：67.4% (「だいたいそう思う」を加えると93.0%)

○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

(R6=0%) **R7年度：0%**

○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

(R6=0%) **R7年度：0%**

○令和7年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、相手の気持ちを考えた発言や行動ができていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。 (R6=84.1%)

7月実施：90.9% **12月実施：93.0%**

(2 豊かな心の育成 2-1 道德教育の推進)

○令和7年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。 (R6=95.5%)

7月実施：96.9% **12月実施：86.0%**

(2 豊かな心の育成 2-1 道德教育の推進)

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標をもっていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上にする。

(R6=64.3%) (2 豊かな心の育成 2-2 キャリア教育の充実)

R7年度：72.7%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を70%以上とする。(R6=38.6%) (「だいたい思う」を加えると75.0%)

7月実施：60.6% (「だいたいそう思う」を加えると**87.9%**)

12月実施：46.5% (「だいたいそう思う」を加えると**83.7%**)

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より5点以上向上させる。

R6=現3年生：国語-6.6点、数学-13.9点 現2年生：国語-16.8点、数学-19.8点

現3年生：国語 -8.9点(-2.3点)、数学-14.6点(-0.7点)

現2年生：国語-14.6点(+2.2点)、数学-18.9点(-4.3点)

現1年生：国語-18.1点、数学-22.1点

○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を10%以上にする。(R6=25.0%)

R7年度：22.2%

○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を70%以上にする。(R6=70.5%) (「だいたい好き」を加えると90.9%)

7月実施：81.8% (「だいたいそう思う」を加えると**93.9%**)

12月実施：76.7% (「だいたいそう思う」を加えると**95.3%**)

○令和7年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、学校の授業を受けて、その内容に興味・関心や意欲をもつようになってきましたか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。(R6=84.1%)

7月実施：87.8% **12月実施：86.0%**

(4 誰一人取り残さない学力の向上)

4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進(各学校の実態に応じた個別支援の充実)

○令和7年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、日ごろから体を動かす運動を行っていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。(R6=97.7%)

7月実施：96.9% **12月実施：95.4%**

(5 健やかな体の育成 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)

○令和7年度の校内・生活実態アンケートにおける「あなたは、日ごろから病気やケガをしないように気をつけていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を毎年90%以上にする。(R6=88.6%)

7月実施：97.0% **12月実施：81.4%**

(5 健やかな体の育成 5-2 健康教育・食育の推進)

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT活用が適さない日数を除く]

(R6=12月現在 13.3%) R7年度：43.3% (12月末現在)

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。

(R6=70.0%) R7年度：18/19人=94.7%(1月末現在)

○令和7年度の学園に対する校内アンケートにおける「学校は、園と連携し共に子どもを育てようという姿勢で子どもへの指導を行っている」の項目について、肯定的な回答をする学園職員の割合を90%以上にする。(R6=85.7%)

(9 家庭・地域等の連携・協働した教育の推進 9-1 教育コミュニティづくりの推進)

7月実施：95.5% 12月実施：100%

○ホームページを含む広報活動や学園・保護者・関係機関との連携を、組織（広報・連携推進プロジェクトチーム）により活性化させ、学園行事に対する「協力・連携」の項目や、生徒に対する「道徳教育」、「学力向上」、「運動・体力」の4項目の取り組みにおいて、肯定的な回答をする学園職員の割合を80%以上にする。

(R6=道徳：92.9%、学力向上：96.4%、運動体力：92.8%、連携：85.7%)

(9 家庭・地域等の連携・協働した教育の推進 9-1 教育コミュニティづくりの推進)

7月実施：道徳 95.5%、学力向上 100%、運動体力 100%、連携 95.5%

12月実施：道徳 93.0%、学力向上 100%、運動体力 100%、連携 100%

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- 校内生活実態アンケートの「あなたは、相手の気持ちを考えた発言や行動ができていますか」の項目において、肯定的な回答をする生徒の割合は93.0%で、目標（90%以上）を上回る結果となった。この項目について課題としている生徒が多く日常生活指導においても重点的な指導をしているため、来年度も継続して進めていきたい。
- 校内生活実態アンケートの「あなたは、人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目において、肯定的な回答をする生徒の割合は86.0%で、目標（90%以上）を下回る結果となった。自己肯定感や自己有用感の育成のため、キャリア教育や道徳教育の継続的な実施が必要である。
- 阿武山学園と分校が連携・協力して実施した職場体験や「夢授業」を中心とするキャリア教育は今年度も充実した内容となった。事後アンケートにおいて90.0%が取り組みを肯定的にとらえ、82.5%の生徒が「将来を考える参考になった」と回答した。今後は、職場体験の受け入れ業者や夢授業の講師への依頼業務など担当者の負担が多く、新規開拓が難しい状況でもあり、継続的な実施に向けた課題解決が必要である。

- 卒業生の追跡調査においても卒業後の中退率は現高校3年生が54.5%、現高校2年生が36.7%、現高校1年生が7.7%である。次年度もキャリア教育の重点目標として、将来の自分を見据えた進路決定や進学後の中退率を減少できる取り組みを継続的に実施していく。
- 朝の学園と分校合同のミーティングによる情報交換、お昼や放課後の分校の教職員間における情報共有を密に行うことで問題行動等について、早期発見・早期解決に繋げることができている。今年度は分校教職員のミーティング内容についても寮長と情報を共有できるシステムを構築した。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 校内生活実態アンケートの「あなたは、学校の授業を受けて、その内容に興味・関心を持つようになってきましたか」の項目において、肯定的な回答をする生徒の割合は86.0%で、目標（90%以上）を下回る結果となった。今年度も大阪市総合教育センタースクールアドバイザーによる授業参観と指導助言を年間通じて計画的に実施してきた。この取り組みにより授業力向上への意識を高め、教員相互で意見交換する機会を設けることができた。来年度もこれらの取り組みを継続していきたい。
- 校内生活実態アンケートの「あなたは、日ごろから体を動かす運動を行っていますか」の項目において、肯定的な回答をする生徒の割合は81.4%で、目標（90%以上）を下回る結果となった。今後も学園や寮担当との連携を強化して、生徒が自らの心身の健康保持に興味や関心を持てるよう指導を進めていく。

【学びを支える教育環境の充実】

- 学校教育に関する学園職員へのアンケートにおいて「協力・連携」「道徳教育」「学力向上」「運動・体力」の4項目における肯定的な回答をする学園職員の割合は、「協力・連携」100%、「道徳教育」93%、「学力向上」100%、「運動・体力」100%ですべての項目で目標（80%以上）を上回る結果となった。今後も学園との協力と連携を大切に様々な意見を真摯に受け止めながら更なる発展をしていきたい。
- 運動会や創立祭・学習発表会の共催行事に積極的に関与し、学園が主催する行事にも積極的に参加協力することができた。また、学校が主催する行事にも学園職員が協力して関わることで、教育と福祉の両面から生徒の心身の成長を促進することができた。今後もより強固な連携体制を推進するため、協議や情報交換を行っていきたい。
- 今年度も、養護教諭が中心となり綿密な計画のもと外部講師を招いた「ティーンズヘルスセミナー」を男女別・学年別に実施することができた。今後も学園の性教育担当との連携を図り、生徒の実態に即した効果的な教育を推進していきたい。

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。 (R6=75.0%) (「だいたい思う」を加えると97.7%) 7月実施: 81.8% (「だいたい思う」を加えると93.9%) 12月実施: 67.4% (「だいたい思う」を加えると93.0%)</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 (R6=0%) R7年度: 0%</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 (R6=0%) R7年度: 0%</p> <p>○年度末の校内調査における「あなたは、相手の気持ちを考えた発言や行動ができていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。 (R6=84.1%) 7月実施: 90.9% 12月実施: 93.0% (2 豊かな心の育成 2-1 道德教育の推進)</p> <p>○年度末の校内調査における「あなたは、人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。 (R6=95.5%) (2 豊かな心の育成 2-1 道德教育の推進) 7月実施: 96.9% 12月実施: 86.0%</p> <p>○「ポジティブ行動支援(PBS)」に関する校内研修を複数回実施し、あらゆる活動にPBSを取り入れることによって、自尊感情を高め、積極的に行動できる子供たちを育てる。 (2 豊かな心の育成 2-1・3 道德教育・人権教育の推進) 校内研修を3回実施(外部講師を含む)</p> <p>○令和7年度の全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標をもっていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上にする。 (R6=64.3%) (2 豊かな心の育成 2-2 キャリア教育の充実) R7年度: 72.7%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【2-1、道徳教育の推進】(道徳担当)</p> <p>学力向上PJチームが年間計画や教材の選定を行い、教科書を活用した道徳授業を、担任を中心として学年団において輪番制で実施する。</p> <p>指標 年間22～35時間以上、教科書を使用した道徳教育の授業を実施する。</p>	B
<p>取組内容②【2-1、道徳教育の推進】(道徳担当)</p> <p>教科書を活用した道徳授業を深化充実させるため、外部講師を招聘し、校内教員研修を実施して、教員の指導力の向上を図る。</p> <p>指標 校内教員研修を年間2回以上実施し、道徳教育の指導力向上を図る。</p>	B
<p>取組内容③【2-2、キャリア教育の充実】(キャリアPJ)</p> <p>「つながる力向上プログラム」を採り入れることで、生徒が自らの特性を深く知り、特に弱点を克服する機会を設けることで、卒業後によりよい社会生活への適応ができるようにする。</p> <p>指標 「つながる力向上プログラム」に加え外部講師を招いての夢授業、職業講話をそれぞれ年2回以上実施し、将来の人生設計を考えるきっかけとなる機会づくりにつなげる。目的意識をもって進学することで、これまでの高校中退率が卒業生全体で約70%近くあったが、卒業後3年間の中退率を50%台にまで減少させる。</p> <p>キャリア教育の取り組み全体を通して、年度末の独自アンケートにおいて「生徒が将来の人生プランに希望をもつことができた」との肯定的な回答の割合を70%以上にする。</p>	B
<p>取組内容④【2-1・3 道徳教育・人権教育の推進】(生活指導部)</p> <p>生徒が自尊感情を高める取り組みとして、ポジティブ行動支援を各活動に取り入れる。</p> <p>指標 ポジティブ行動支援について、外部講師を招いた研修など導入に向けた研修を計画的に年3回行い、独自アンケートなどから成果の確認を年度末に行う。</p>	B
<p>取組内容⑤【1-1、いじめへの対応】(生活指導部)</p> <p>「いじめ対策委員会」を中心に、校内の児童生徒の状況を全教員や支援の職員が共通理解し、早期発見と対応にあたる。</p> <p>指標 朝と昼の2回、生徒の授業中や校内での様子や態度について情報交換し、問題行動の早期発見と早期解決に努める。また、週末の放課後、一週間の行動を「振り返りシート」に書かせ、いじめ等の問題行動の未然防止に努める。</p>	A

中期目標及び年度目標の達成状況や取組の達成状況

- ① 2月3日時点で、1・2年生は21回、3年生は20回実施することができ、例年よりも遅れはあるものの、年度内には目標を達成することができる予定である。
- ② 校内道徳研修を2回実施することができた。うち1回は外部講師（教育センタースクールアドバイザー）による、道徳研修を実施できた。
- ③ 2月10日時点で夢授業を3回、高校からの出前授業、職業講話、職場体験実習、出前職業体験、自己理解に関するワークショップを実施できた。年度末に行った独自アンケートでは82.5%の生徒が今年度のキャリア教育の取り組みを通して「将来を考える参考になった」と回答した。卒業生の追跡調査においても卒業後3年間の中退率は54.5%であった。
- ④ ポジティブ行動支援に関する研修は年3回実施することができた。学校全体として共通で取り組んだことはないが、各クラスでの導入や生徒対応の際に活かすことができた。
- ⑤ ミーティングでの情報交換で問題行動の早期発見、早期解決につなげることができた。また、週末の振り返りシートで、いじめ等の問題行動の未然防止につなげることができた。

来年度への改善点

- ① 今年度も、学年ごとのローテーションで行った。今年度は総合的読解力や、土曜授業の削減により、火曜5限での実施が例年よりも減少し、道徳の進捗に遅れがあった。しかし定期テスト後に道徳の授業が確保していただき、取組等が入っても目標としている道徳の授業回数は達成することができている。来年度はキャリア教育として行っている取組みも道徳の授業として扱えるか検討していきたい。
- ② 道徳研修は目標としていた2回に達し、研究授業も例年通り実施することができた。研究授業後は、教育センタースクールアドバイザーによる振り返りを個別に行っていたため、授業をさらに工夫している教員もみられた。今後も継続する必要があると考える。道徳教育は道徳の授業をかなめとして行うため、来年度は学校全体として教科横断型、または行事等を活かした道徳教育を進めていきたい。
- ③ 取組み内容が過多になってきているので精選していく必要がある。また、中退率に関しては、50%台と横ばいの状況である。学校として中退率の原因について考える必要があると考えられる。
- ④ 各クラスでの導入などはあったが、学校全体として取り組むことはできなかった。またデータなどもとることができなかった。学校として導入していくにあたってデータのとり方や項目などを検討する必要がある。
- ⑤ ミーティングでの情報交換などは一定できているものの、細かな報告が抜けていたりする。教員によって差があるため、細かなことでも共有し、寮への報告もしていく必要がある。

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を70%以上にする。 (R6=38.6%) (「だいたい思う」を加えると75.0%) 7月実施: 60.6% (「だいたい思う」を加えると87.9%) 12月実施: 46.5% (「だいたい思う」を加えると83.7%)</p> <p>○中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント向上させる。 R6=現3年生: 国語-6.6点、数学-13.9点 現2年生: 国語-16.8点、数学-19.8点) 現3年生: 国語-8.9点(-2.3点)、数学-14.6点(-0.7点) 現2年生: 国語-14.6点(+2.2点)、数学-18.9点(-4.3点) 現1年生: 国語-18.1点、数学-22.1点</p> <p>○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を10%以上にする。(R6=25.0%) R7年度: 22.2%</p> <p>○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を70%以上にする。(R6=70.5%) (「だいたい好き」を加えると90.9%) 7月実施: 81.8% (「だいたい好き」を加えると93.9%) 12月実施: 76.7% (「だいたい好き」を加えると95.3%)</p> <p>○年度末の校内調査における「あなたは、学校の授業を受けて、その内容に興味・関心や意欲をもつようになってきましたか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。(R6=84.1%) 7月実施: 87.8% 12月実施: 86.0%</p> <p>○年度末の校内調査における「あなたは、日ごろから体を動かす運動を行っていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。 (R6=97.7%) (5 健やかな体の育成 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進) 7月実施: 97.0% 12月実施: 95.4%</p> <p>○年度末の校内調査における「あなたは、日ごろから病気やケガをしないように気をつけていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を毎年90%以上にする。(R6=88.6%) (5 健やかな体の育成 5-2 健康教育・食育の推進) 7月実施: 97.0% 12月実施: 81.4%</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【4-2、「主体的・対話的で深い学び」の推進】(学力PJ) 学力向上PJが中心となって、子どもの学習理解度に応じた指導内容を作成するなど、組織による基礎学力の向上をめざした「わかる授業」を計画する。</p> <p>指標 授業アンケートの「授業理解」の項目で、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。</p>	A
<p>取組内容②【4-2、「主体的・対話的で深い学び」の推進】(学力PJ) 生徒の学習面でのつまずきや悩みを早期に解決するため、学園の支援職員や寮長・寮母との情報交換を密にするなど、連携の強化を図る。</p> <p>指標 学園職員に学校教育に関するアンケートを実施し、「学力」に関する項目の肯定的な回答を90%以上にする。</p>	A
<p>取組内容③【4-1、言語活動・理数教育の充実】(学力PJ) 授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなど工夫して発表する機会を单元ごとに設ける。</p> <p>指標 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を60%以上にする。</p>	B
<p>取組内容④【7-2、教員の資質向上・人材の確保】(研究主担) 授業研究を伴う公開授業を実施し、その後の授業研究協議等により、教員の教科指導力の向上に努める。</p> <p>指標 全ての教員の資質能力を高めるために、外部講師を招いた研究協議を伴う公開授業を3回以上実施する。</p>	A
<p>取組内容⑤【4-1、言語活動・理数教育の充実】(学力PJ) 言語活動の充実に柱に、新聞の活用を各教科で取り入れ、たくましく生きていくための幅広い知識の習得に努める。</p> <p>指標 各教科で新聞を活用した授業の実践と校内研修で実践事例の交流を行う。</p>	B
<p>取組内容⑥【5-1、体力・運動能力向上のための取組の推進】(保健体育科) 自ら進んで運動に親しみ、自己の健康・体力に興味と関心が持てるよう、学校の授業や体育的行事のみならず学園のスポーツ行事も積極的に活用する。</p> <p>指標 生活実態アンケートを実施し、運動・スポーツに対する「意欲」、「興味と関心」、「運動習慣」等の項目において、肯定的な回答をする生徒の割合を75%以上にする。</p>	A
<p>取組内容⑦【5-2、健康教育・食育の推進】(保健主事) 毎日の健康観察より感染症の早期発見・早期対応に努める。また、「ほけんだより」や保健に関する掲示物などを活用し、感染症を初めとする病気やケガの防止について情報を発信し、啓発活動等を積極的に実施する。</p> <p>指標 「保健だより」を毎月1回発行する。 廊下や階段等にタイムリーに健康に関するポスター等を掲示する。</p>	A

中期目標及び年度目標の達成状況や取組の達成状況

- ①12月実施のアンケートでは肯定的な回答が90.7%になっており、目標を大きく上回ることができている。次年度も新入生が増えていく中で、現在の数値を維持もしくは上回ることができるように、さらなる授業改善努力を行う。
- ②12月実施のアンケートでは、肯定的な回答が100%となった。以前よりも数値が上がっており、目標も上回っている。
以前のような、行事に関する意見も今回はなかった。一部の意見には、「タブレットで問題があるのは仕方ないが、生徒がごまかせないように対応してほしい」といった意見や、「寮ごとに対応できることが異なるので、どこでも同じ対応ができるとは思わず確認してほしい」という意見があった。
- ③全国学力学習状況調査の回答は79.8%と、目標を大きく上回っているが、前回(84.4%)より下がってしまったのでBとした。
- ④外部講師を招いた研究協議を伴う公開授業を3回以上実施することができた。
- ⑤各教科担任の先生に、学期に一度の新聞活用の実施と記録を呼び掛けて、記録を行った。
- ⑥生活実態アンケートの運動・スポーツに対する「意欲」、「興味と関心」、「運動習慣」等の項目において、肯定的な回答が95.3%と目標を大きく超えることができている。今後の様々な行事においても、子どもたちの関心を高められるよう学園と協力していきたい。
- ⑦指標に関しては達成できた。掲示物については更新頻度が低くなってしまったが、天気や注意喚起、雑学等をこまめにボードに示すことはできた。

来年度への改善点

- ①今年度は目標を達成することができた。
しかし、「学力向上PJが中心となって、子どもの学習理解度に応じた指導内容を作成するなど、組織による基礎学力の向上をめざした「わかる授業」を計画する。」という目標に関して、学力としてできたことはあまりない。
今年度はメンター研修などを通して、授業研究の方法や総読の模擬授業を行うことがあったので、このような取り組みを学力として推進することで更なる数値の向上に努める。
- ②今年度学園から上がった意見として、「行事への参加が特定の先生に限られる」「タブレットで問題が起きたときの対応方法」「各寮との連携を深める」といったことがあった。
これらについて周知をし、協力関係を深めていく。
- ③各教科で取り組みを行っていけるよう働きかけを継続する。
- ④メンター研修や教員間での自主的な交流などを勧め、指導力の向上に努める。
- ⑤呼びかけを行ったが、記入率が100%にはならなかった。学年担当からの呼びかけを必ず行い、実施してもらおう環境を今後も作っていく。
- ⑥学園行事の積極的な参加など学園との協力関係を強めていく。
- ⑦今年度もお薬講座と性教育、外部講師を招いての講演会を実施することができ、感染症や病気、ケガ防止の啓発に努めた。重点目標である生活実態アンケートの「あなたは、日ごろから病気やケガをしないように気をつけていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にするにはできなかった。来年度は1年間を通して組織的に取り組むとともに、計画的に進める。

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く] (R6=13.3%) R7年度: 43.3%</p> <p>○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。 (R6=70.0%) R7年度: 18/19人=94.7%(1月末現在)</p> <p>○令和7年度の、学園に対する校内アンケートにおける「学校は、園と連携し共に子どもを育てようという姿勢で子どもへの指導を行っている」の項目について、肯定的な回答をする学園職員の割合を毎年90%以上にする。(R6=85.7%) (9 家庭・地域等の連携・協働した教育の推進 9-1 教育コミュニティづくりの推進) 7月実施: 95.5% 12月実施: 100%</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【9-1、地域学校協働活動の推進】（広報・連携） 広報・連携推進プロジェクトチームが主体となり、組織による学園、保護者、関係機関との連携の強化を図り、学園行事にも積極的に参加する体制づくりに努める。</p> <p>指標 学園職員に学校教育に関するアンケートを実施し、学園行事に対する「協力」、「連携」等の項目において、肯定的な回答の割合を80%以上にする。</p>	A
<p>取組内容②【9-1、地域学校協働活動の推進】（生活指導部） 芸術鑑賞や運動会・創立祭など、学園との共催行事に積極的に関与し、教育と支援の両面から生徒の心身の成長を促進する。</p> <p>指標 学校教育に関するアンケートを学園職員に実施し、「徳育」、「知育」、「体育」、「連携」の4項目において、肯定的な回答をする割合を80%以上にする。</p>	A
<p>取組内容③【9-1、地域学校協働活動の推進】（生活指導部） 学校や学級内で発生した問題などについては、担任、生活指導部、生徒指導主事を中心に迅速な対応と解決に努め、寮長や寮母等に学校での指導の経過を説明し、寮内での指導の一助になるよう努める。</p> <p>指標 「特別指導教室」での指導件数を、昨年度より10%程度減らす。</p>	B

中期目標及び年度目標の達成状況や取組の達成状況
<p>①12月の学校教育に関するアンケートでは、連携100%で達成。 様々な勤務形態の教員がいる中で、できるかぎりの行事参加はできている。 一方で、タブレットの扱いに対する不安感と細かい出来事の伝達漏れがある。</p> <p>②学園職員に対する学校教育に関するアンケートでは、知育100%、徳育93%、体育100%、連携100%となり、すべての項目で指標を大きく上回ることができた。</p> <p>③特別指導教室使用件数は昨年度の同時期と比106%と6%増えており、目標を下回る結果となった。</p>
来年度への改善点
<p>①タブレットの扱いについては、再度教員間でルール of 徹底を図る。また、学校で起こった出来事については、ミーティングノートを共有することで伝達漏れを防止する。</p> <p>②徳育が指標を大きく上回ることができた。これからも生活指導部を中心に生徒の規範意識を高めていく必要がある。</p> <p>③数値としては増加しているが、件数としては1件のみの増加である。特別指導教室を利用することが決して悪いことではないので、有効に活用していきたい。</p>